

おの でら そういちろう
小野寺 宗一郎 議員



問 消防団における組織の現状と活動の課題について

答 新たな消防体制を構築し、地域防災力の低下を招かないようにしっかりと取り組む

消防団への社会の理解を更に広げるために必要な強化・拡充が必要と考えるが。

問 現在の組織定数と充足率、平均年齢は。

生活安全課長 本部組織11名と1分団当たり24名の4分団体制の総員107名となっており、令和6年度の充足率は72%、団員の平均年齢は37歳となっています。

問 機能別消防団員制度の概要は。

生活安全課長 機能別消防団員は、能力や事情に応じ、特定の活動のみに参加するものであり、団員の減少やサラリーマン化に伴い、日中の火災や大規模災害時の人員確保が難しいことから、日中の建物火災と大規模災害時に活動していただくこととしています。募集については、

公募並びに消防団本部での勧誘となります。



問 ふるさと納税について

答 令和6年度は最終的に7億円を越える見込み

問 寄附金額が伸びた要因は。

まちづくり戦略課長 主力返礼品であるお米の需要増加とそれに伴う価格の高騰及び豆乳の多彩な返礼品展開が寄附額の大きな伸びにつながっています。

新たに創設する地域商社「一般社団法人ごかみらいLab」との連携が肝要と考えるが。

問 地域商社のふるさと納税に対する取組は。

産業課長 開発した地域産品

を返礼品として提供、地域ブランディングによる他の地域との差別化、寄附者に五霞町を選んでもらえるようなプロモーションを行うほか、ふるさと納税の業務の一部を内製化するよう進めていきます。

問 寄附金の使い道は。

まちづくり戦略課長 寄附金は、寄附者の希望に沿った事業に活用されます。令和6年度は、夏休みこども教室、イングリッシュキャンプや五霞I.C周辺開発に伴う調査、防犯カメラの設置などの事業を実施しています。

